令和４年度　　（　宮城県立古川支援　）学校の研究概要　～令和５年１月末現在～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 運営委員氏名（ 佐藤 幸三 　）

|  |  |
| --- | --- |
| 研究テーマ | 授業改善システムの効果的運用を目指して  ～年間指導計画と教科別内容表との関連と指導内容の具体化を通して～ |
| 研究目標 | １　年間指導計画を活用した授業改善システムについて，効果的で継続的な授業改善システムの構築を試みる。  ２　年間指導計画に表された教科別内容表を，実際の単元の中での学習活動に関連付け，工夫しながら指導する意識を高める。 |
| 研究内容・方法  研究計画等 | **１　実践研究（学部研究）**  　　・学部ごとに，年間指導計画を基にした授業実践をし，そして反省や年間指導計画の修正を行う中で，効果的な授業改善システムの在り方について検証する。  ・年間指導計画と教科別内容表の関連について確認し，主体的・対話的で深い学びの実践のためのより良い指導や支援の工夫について検討する。  **２　個人研修（個人レポート）**  ・年間指導計画と教科別内容表との関わりについて，各教員の理解を深める。  ・指導内容の工夫について紹介し合う方法の一つとして，個人レポートの作成を行う。期間は６月から１１月までとし，１１月にはテーマ別での発表会を行う。 |
| 研究の概要  　・研究経過  　・研究成果等 | **１（１）授業改善の視点や年間指導計画の活用についての確認**  **①校内研究研修会（5月）「特別支援教育における『深い学び』の実践」**  **（講義・演習）**講師：県総合教育センター 指導主事 大森奈津子先生  ・前半に深い学びについての基礎的理解に関わる部分の講義，後半に自分の  担当する児童生徒が深い学びをしている姿をイメージすることから，深い学びに繋がりそうな学習内容や手立てについてグループワークで考えを広げる演習を行った。  **②年間指導計画の作成について（6月 新転入者研修）**  ・新転入職員が本校のカリキュラム・マネジメントや授業改善システムへの  理解を深められるよう，教務部主催で研修を行った。  **（２）授業改善システムの運営**  ・校内研究全体会でカリキュラム・マネジメントの理解の共有を図り，その後学部ごとに活動グループを作成し，年間指導計画の活用しながらの授業改善，年間指導計画の修正に取り組んだ。  **２（１）個人研修**  ・４～１１月までに実践した授業をA４用紙２枚程度にまとめ，個人レポー  トを作成した。実践する授業は，各教科または，合わせた指導とし，各学部の令和４年度年間指導計画を基に，授業を担当している全ての教師が授業実践を行い，レポートを作成した。  **（２）個人レポート情報交換会**  ・１１月下旬に，共通する教科や学習内容ごとに５人程度のグループを作り，実践の成果を紹介し会う機会を設定した。  ・アンケートにより，個人レポートの作成や，情報交換会によって，新学習指導要領に対する理解が深まったかについて，確認する機会を設けた。  **研究の成果**  　授業改善システムを効果的に活用し単元を展開，振り返り，次年度の年間指導計画を立てていくこと，また個人アンケートを通じて教科別内容表の活用について考えることなど，多くの先生方が献身的に努力したことで，成果を残すことができたことが12月の職員アンケートの結果からうかがえた。  特に単元の振り返りの話し合いがあることで授業の質を高めることが期待できると共に，その過程において教師の学び合いが展開され，資質・能力や課題解決に向けたチーム力の向上が見られ，それが本校の特色として発揮されている点においてのその成果は大きい。  研究目標について反省してみると，「１　年間指導計画を活用した授業改善システムについて，効果的で継続的な授業改善システムの構築を試みる」について，研究部として授業改善システムについて基本的な流れを研究部会ごとに確認し，昨年度よりスリムな形での実施ができ，かつ各学部の運営上の工夫や課題を８月までに明確にすることができた。その成果を教務部に引き継ぎ，教務部と連携して次年度の運営について考えることができたことで目標を一定以上達成することができたと考える。  「２　年間指導計画に表された教科別内容表を，実際の単元の中での学習活動に関連付け，工夫しながら指導する意識を高める」について，コード（単元における教科別内容表の内容項目）を意識して学習計画を立てることやコードを意識した指導について考えることができたと考える教師が多くいたことにより，教科別内容表のコードや段階についての理解や年間指導計画との関連性を普段から少しずつ意識できるようになった。  以下に他に成果として挙げられるものを記載する。  ・新学習指導要領と本校の児童生徒の実態に即した年間指導計画の作成（修正）を図ることができ，本校のカリキュラム・マネジメントの運営において，教員全員で協働しているという意識が強まった。  ・教科別内容表における学習内容（コード）が年間指導計画にできるだけ網羅されるよう，再確認しながら年間指導計画を計画することができた。  ・深い学びの視点についての理解が深められ，授業改善の視点（方法）を意識した授業作りを自然に行うことができるようになってきた。  ・教務部との円滑な連携が図られ，次年度の効果的な授業改善システムの在り方について方向性を導き出すことができた。 |

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお，項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。